京都教区時報 カトリック
古屋司教認可
教区広報室発行
印刷所
京都・西本印刷有限会社

祝 御霊名 パウロ古屋司教様

六月二十九日は、パウロ古屋司教様の霊名の祝日です。司教様は一九〇〇年のお生まれですので、今年二月九日には満七十才になられました。従って、パリーミッションの神父様から敦賀の自宅で受洗されてから、七十回目の霊名の祝日を今年お迎えになりました。

司祭叙階後十一年目の一九三九年からは京都教区の初代教区長として、一九五一年からは司教として京都教区の発展と充実のために、日夜尽くして下さっています。

神学生だより 貴重な一年

滝野正二郎

京都教区の神学生である私は、哲学部での四年間の勉強をおえて、現在東京の下町のガラス屋に住んでいます。

これは、神学部での四年間の勉強をする前に、神学生が自分の召し出しを再確認し、さらに教会の枠から離れて一人前に生活するために、五年前から神学生の中間期として設けられた制度です。その主旨はいろいろと考えられますが、私の場合、やはり自分が教会の枠から出てみて、本当に自分は神父になりたいのかと問うてみることが一番大切なことだと思います。現在、司祭になってからやめてしまう人がいますが、そのようなことがないように自分の召し出しというものを確実なものにしておきたいからです。

特にキリスト教と関係ない環境において、果してキリストはこの世のためにどんな得があるのかということを見かえす必要があると思います。

現実において、今は宗教に対して無関心の人が殆んどといえます。しかしその裏にはレジャーによって自分たちの欲求不満をぶちまけている姿があるのです。

このような社会の一員として私は何ができるのでしょうか。ただ社会人としての自分の務めを果して行くしかないのです。まず自分が社会人として一人前にならなければ、神父になれないと思います。

いくら偉そうなことを言っても、それが教会という狭い視野でしか考えられないのならば、本当にキリストの言葉とならないのです。キリストはこの世に生まれたすべての人々のために来られたはずです。だから、神父も教会といういう一つの社会集団にいるのでなく、社会の一員としてあらねばなりません。

今は、神学校におけるように定められた時間が来れば祈るということでなくて、仕事をしている時、それを自分なりに精一杯していることが祈りになると思います。住込みのために祈りの時間も特別にとることもできませんが、信徒の方々が熱心に祈り、教会の仕事をしておられるのを思うと恥かしくなります。もし自分が単に神学校で八年間勉強しただけならば、信徒の方々の苦労や生活に追われている姿などには目もくれないで、ただ教会の仕事をしていれば熱心なキリスト者だと思ったことでしょう。

本当のキリスト者は、社会人として立派であることが必要だと思いました。ただ、キリスト者が社会に巻き込まれてしまって、キリスト者であることを忘れてしまう危険性は現在よく感じます。

キリスト者として、現在自分は何ができるのか、社会に何を示すことができるのか、それは私のこれからの課題であり、また教会自身の課題だと思います。

（河原町教会出身）

教区ニュース

三重地区 婦人大会

去る五月三十一日（日）聖体の祝日に、三重地区合同の婦人大会が、若葉滴る津聖心教会の庭で行なわれた。

老若婦人約百三十名が集い、二十年前からの神の子も、一年前の受洗者も、共にキリスト様によって贖われた神の民の一員としての自覚をもちつつ、ミサに与かり、実り豊かな大会であることを祈り合った。

全体の雰囲気は非常になごやかで、所属教会名と氏名を記した胸章によってお互いに親しく知り合うことができた。また各教会の一致団結がよくできていたことや会長が統率していたことなどはよかったと思う。

ミサ中バリー神父様は、聖体の祝日について説教され、キリストとの対話を強調された。

昼食後、三人の講師による講話が行なわれた。

先ず徳久神父様が婦人会と教会について話された。

「婦人会を充実し、外部的活動をするに当って、社会は教会に対して何を欲しているかをよく考え、殻に閉じこもらずに、積極的に働きかけなければならない。現代に生きる婦人として、また、キリスト者として活動することは大切である。愛徳に励み、苦しみを共に分ち合い、小さな種が大きな木となるよう努め、かつ祈ろう」。

次いでシスター・リチェル様が「信者の母」と題して話された。

「母親が、日常生活を通して子供の心に信仰の種を蒔き、常にキリスト者としての態度をとっているならば、子供は自然と生活の中で見習うものである。これは家庭における宗教教育の大切な点である。幼児に対しては、指導と訓練が必要とされる。また中学・高校時代の反抗期には、信仰の問題点を具体的に指導することが重要である」。

婦人大会風景

最後に幼児の家庭教育について、津教会保育園の松本ひさ様が話された。

「家庭において、素直な、朗らかな心で、幼児に信仰を伝えることは非常に大切である。また共に祈り、共にミサに与かることは、もっとも望ましいといえる」。

引続いて、三つのグループに分れて討論が行なわれた。

第一分科会＝婦人会の充実及び婦人会会員としての外部的活動。

第二分科会＝信者の母として子供の前でとるべき態度及び自由の中の信仰。

第三分科会＝幼児の宗教教育、乳児の洗礼及び望ましいカトリック信者の家庭。

討論は予想以上に活発になされたが、不慣れな点もあり、また講話の内容に具体性が欠けていたために充分深く話し合うことができなかったことは残念であった。しかし日頃の問題をもちよって、心の底から皆で度々話し合い度いという気運が高まったことは、この討論会の一つの大切な実りであったと言えよう。

また各教会、各家庭の種々の事情を互いに知ったことによって、その苦しみを皆で分ち合う必要性を再確認した。

日々の生活のうちに、また各教会婦人会の会合のうちに、この婦人大会で学んだことを活かし、更に高めて、十一月一日に行なわれる合同大会に家族共々臨むことを誓いつつ、この大会の幕を閉じた。（久居教会中井かへ記）

京都北地区 小教区組織の再編成

宮津・網野・大宮・峰山教会（主任司祭西本師）では、小教区の組織の再編成が少しづつ行なわれている。

先ず最初に網野教会でなされたことは、既存の各グループを全員参加のグループと有志のグループとに分け、前者を奉仕その他の仕事から切り離したものとして特色付け、奉仕できないために集会に参加しにくいということがないよう配慮された。全員参加グループは、更に壮年会、婦人会、青年会、子供会とに分けられ、全信者層を網羅した形をとっている。

一方、有志のグループは、全員参加グループの各会のメンバーから有志が集まってつくるグループで、典礼クラブ（ミサ答え、聖歌隊、オルガン、ミサ準備などに分けられる）、墓地委員会、スカウト活動（ボーイとガールの指導）、レジオ・マリエ、キャンプ世話係（夏期他教会のキャンプの世話）がこれに属する。

更に両グループを統轄するために、また主任司祭が一人で四教会と二カ所の巡回地を掛け持ち、常時例会に出席できないために、教会代表委員会が設けられている。代表委員会は六名から成り、三名は全員から司祭の任命、三名は全員からの選出という形がとられている。

現在既に活動が開始されており、教会連営がスムーズに行なわれるようになっている。

次に宮津教会でも、網野と殆んど同じ形がとられているが、同小教区に以前からあった隣組組織を連絡委員会とし、更に事業企画委員会が教会代表委員会の下におかれている。

この組織の再編成によって信者が自分たちの教会という共同体的意識を更に高めることができるよう期待されている。

その他のニュース

御所老人ホームのホールが完成、六月三日落成式が行なわれた。

桃山教会では聖堂が狭くなったために、集会室を兼ねる形で増築された。

草津教会では、心泉会（信者会）の今年のテーマとして「布教」を決めた。

高野教会では、六月七日津の御殿場海岸で潮干狩りに行った。

三条YBUにおいて、九月十二日から四回（何れも土曜日）に亘って、結婚講座が開かれる。（午後七時～九時）

CLC運動への呼びかけ

北白川教会CLC

CLC（クリスチャン・ライフ・コミュニティー）とは何かという問いは、私たち北白川教会CLC発足以来の難問です。現在京都市内にある三つのグループのどのメンバーもよく答え得ない問いでしょう。しかし、「一人々々がキリスト者として、どう生きるべきか」という意識は共通している。私たちは、その具体化として、教会の在り方、私たち自身の在り方についてテーマを決めて、研究、討論を行なうという方法をとっています。

従ってCLCは、レジオ・マリエや学連などの諸活動の使徒的な力の源泉を求めているものであり、キリスト者の生活の礎を築く活動であるとも言えましょう。私たちのグループでは、司祭も労働者も学生も、皆各自の場で召命を果そうと努めつつ、信者としての内的成長を促す力を、CLCで得ようとしています。

最近、北白川教会CLCとノートルダム女子大CLCとの合同研修会を開きました。他のグループとも協力を深めていく一方、運動としてのCLCをより深く理解するためにCLCについてのリーフレットを出す予定です。

現代に生きるキリスト者を模索しているこの運動に、以前コングレガチオ・マリアーナ会員であった方々の参加を呼びかけたいと思います。会の性格は非常に変りましたが、キリストの成聖への招きに答えるという事は変っていません。一般信徒の方々にも参加を呼びかけたいと思います。連絡は小山教会斎木神父まで。

渡部実蔵氏

伊勢教会が、津教会の巡回教会であった昭和二十四年から最近まで、伊勢教会の伝道士として尽くしてこられたヨゼフ渡部実蔵氏は去る三月十七日、癌で亡くなられた。（享年七十九才）

故人は信仰篤い方で、多くの人々を信仰に導かれた。そして故人から教理を学んだ信者の信仰が確固としており、いかに心をこめて教え導かれたかが判る。

また故人は、ロザリオの祈りに親しまれた方で、何時もロザリオを手に、熱心に祈っておられた。

故人の末の娘さんは、カノッサ会のシスターになっておられる。

東門千代氏

教区事務所主任東門師の御母堂モニカ東門千代氏は、去る六月二十五日、胃癌で亡くなられた。（享年七十一才）

編集室より

○広報の日には、カトリック広報のためにお祈りと献金による御協力をいただき、ありがとうございました。

○次号（第37号）は「第二バチカン公会議の精神が、信者としての生活にどのように活かされているか」というテーマで特集いたします。原稿の締切りは八月十六日で、九月六日の発行予定です。尚、第38号では、「労働問題と私たち」を特集します。

特集・小教区グループ活動

小教区活動の困難

大津教会信徒会
谷口正大

大津教会は、信者の異動が著しく十年経てば信者の大部分が入替るような状態で、信徒会の運営には大きな障害となっております。また司祭の異動も屡々あり、信者にとって真に落着いた活動がむずかしく思われます。

教会の中心となる壮年層は特に少なく、教会維持のためには壮年層の活動が要求されていますが、例会の出席率もよくありません。むしろ婦人層の活動が活発ですが、その活動にはいろいろと制約もあり、特に経済的な面で大きな負担がかけられないために、毎年のように必要とされる聖堂（今年献堂三十周年を迎えます）の補修などは、数少ない壮年層の重要な仕事となっております。

従って、信徒会としての本質的な活動、例えば布教、親睦、研究などに専心することがむずかしい状態にあります。しかしながら、心身障害児施設のための街頭募金や敬老会など地域社会への奉仕活動を実行し、絶えず新しい活動へと進んでおります。

私たちは、「教会の中の最も小さい集団である小教区の活動はいかにあるべきか」という命題に、教会指導層の明確な、そして現実に合った、さらに私たち信者の日常生活を真に尊重された上での解答を願い度いと思います。

教会では、現在壮年層と青年層の間にあらゆる面で大きな断層があり、私たち壮年の考える信徒活動に関して、時代にそぐわない、また隷属的な行動が若い人たちに受け入れられない大きな要素であると考えられます。

私は信徒会々長として今年一月より活動を行なっておりますが、信者が自発的に企画し、実行するにはまだまだ厚い壁があるように思います。それは永年の外国宣教会による教会運営に対して信者の中にも植民地的な考えが少なからず根ざしていると言えると思います。これをなくすることは一朝一夕には不可能ですが、教会の指導層と信者が互いに新しい視野に立って目覚めて行かなければならないと思います。

古い大きな教会を抱えている大津教会は毎年その補修に追われ、集まればお金のことと言われ、信者の負担も重なります。何か良い方法はないものかと思い、秋には例年の如くバザーを行なうために早や準備にかかりました。物心両面の教会維持、そして私たちは家庭も維持して行かなくてはなりません。ではどうすればと言われれば、それは全信者が平等にその義務を負うことにとどまるでしょう。

現代は、できる人が、またやりたい人だけで活動する時期ではありません。教会を"私たちの教会"と呼ぶ時、信仰も活動も義務も含まれているかのような"はやりの錯覚"に陥ってはならないということである。

人間の機械化から始まって人間疎外―人間性の喪失―断絶そして現在は社会的なフィルドバックによって「人間回復」が叫ばれている。人間回復の本質的なことは「すべての人間は神の子であり、ひとしく神の恩恵を受ける」ということであり、そこから来る真の愛の実践による愛の交流、結びによって、始めて真の人間回復は達成されるということである。教会に所属するすべてのグループは直接的間接的を問わず完全な人間回復を示された主キリストのわだちを歩むという――信徒使徒職の使命をもっている。このような各グループは、何でもよい、人間回復につながる活動を行なうのは必然であり、そこに生命が存在する。しかし乍ら団体としての目標として数多ある人間回復の各種の働きの場の中で、とりわけ社会と密着した主要目標を設定することは社会にとっても、その団体にとっても極めて有効なことであり、換言すれば"我々の各会には、このような有効な目標が与えられなければならない"ということである。勿論このようなことは小生が論ずるまでもなく各会の特色によってこのことは与えられているのであるが、特に強調したいのは、現今一般社会の意向とよく一致した目標が必要ということであり、そこには広範な人間回復の観点からは一方途としてではあるが、「社会福祉に関する活動」がピックアップされる。それが具体的に活動されるときその団体の生命は躍動する。

これらの活動が特に何故有効であるのかは、それが「自己を離れて他に、特に欠けた社会の部分に捧げるとき物質偏重の世界から来る社会及び人間個人の歪みから解き放たれる」からである。

各グループは、外観的形式等をいたずらに批判するに止るようなことなく、その不備や不満足を越えて、その規則、秩序が教える本質的な目的、精神を希求し、各会の特色を生かし乍ら、具体的運営について祈りと研究と積極的な活動をもって、「真の人間回復」の具現に、あい互に努めるべきでありましょう。

（重度身体障害者の愛のホーム建設 活動を参考示唆として）（壮年会 四十三才）

沈黙を破れ

津教会壮年会
珍道世直

「社会的問題に対する行動力」「信仰公布のための熱烈な活動」―この二つの欠如が、残念ながら私たち信者の共通的な欠陥といえるのではないでしょうか。

第二バチカン公会議以後、各教区で信者集会が開かれるなど、信者の積極的な発言が見られるようになって来たが私たちは、いまや、沈黙を金とすることなく、各人が積極的に意思表示するとともに、"すべてを主の御旨"とする姿勢をすて、"人間の怠慢や過ちのために起った苦しみは人間自身からのものであることを直視"して、前向きに、その改善に取り組んでいく必要があるのではないでしょうか。

カトリック精神をバックボーンにし、現在社会的に問題となっている公害、物価、住宅、交通など生活環境問題をはじめ、社会福祉、産児制限、さらには富の悪分配の問題などこの世的なものにも、カトリック者として大きな関心を示し、勇気をもって、団結して行動することが必要であり、このことが"社会に貢献する信者"となる道であると考えます。

紙面の都合上、社会的行動力を強化するための策として、次のことがなされるよう切望します。

(1) 日本教区の創設―現在日本は大司教区三、司教区十三の十六教区に細分化されているが、この（大）司教区をさらに統轄するものとして、日本を一つにした日本教区を創設すべく、司教団は教皇に上申し、実現をはかる。

(2) 信者グループの全国的組織の編成―総ての教会に全信者を包含した信者会を設置、その内部組織として、青年会、壮年会、婦人会などをもうけ、それを全国的組織に編成し、信者のエネルギーの結集をはかる。ただし、求道者は信者に準じたものとして信者会に包含していく（日本信者会―（大）司教区信者会―各県信者会―各小教区信者会）

(3) 日本教区信者会及び（大）司教区信者会事務局に、優秀な信者職員数名を常勤として配置し、特に社会的問題に対する情報、資料の収集伝達、カトリック的見解の宣伝など信者会活動全般の業務に専従してあたらせる。

(4) 各教会の信者会は、その居住する市町村をよりよくしていくため、あらゆる問題にカトリック的見地から積極的な提言をなし、地域住民をリードし、住民と共に行動していく。また、教会内外の世話活動を強化するとともに社会を変革していく近道として、カトリック者を国、県、市町村議会議員に推挙し、当選させていく。

同志の皆さん、生き生きした教会をつくるために結集しよう。司教団の積極的な呼びかけを期待します。

自己成聖を活動の目的に

大津教会青年会
多田東臣

グループといっても個人の集まりである。各個人がしっかりとした信仰に基く考えをもっていること。一人々々は、いかに他の人と和を保って行動するかに気を配ること。リーダーは全員の進歩と融和をはかりつつ他のグループとの接触を円滑に行なうことができるようにすること。この三点は大切だと思う。

ある人は、これは長い間活動しているグループにはできるが、これから活動するグループや細々とやっているグループではとても思うかも知れない。なる程その通りで、活動の目に見える実りは、なかなか期待できないものだろう。しかし活動の目的を常に自己の成聖におく時、この三点は二人以上の人の集まりがある時の忘れざるべき事柄と私は思う。グループ活動のテクニックであると同時に、自己の霊的成長の手段であるならば好都合であろう。その方法の一番は、一人々々が出し合った意見のうちで誰かがしなくてはならないが、誰もしたくないことを進んでやること、言えないだろうか。決して他人から言われてやるのではなく、あくまで構成員が自発的に――いやいやながらでもよい――実行し、その後神へ挨拶しておけばよい。そう私は思う。

その方法としての二番は、長く続けること。これによってだんだん活動内容が適確に把握できるようになるし、無言の宣伝効果がある。

三番目は、まず一人だけ相手を見つけることである。呼びかけは、大勢にしても来る人が少ないことは二千年前からの人間の伝統であると割切れば、自分以外の一人がどれ程有難いものかがわかり、それ以外でやり始めることは、なお深い意義をもっていると思う。

四番目は、神を、キリストを避難所とすることである。愚痴や誹りを避難所とする人は、即刻頭を丸めて、活動を続けるべきである。

最後に、最もグループ活動でやるべきことは、入イエズスと神を探求することであると思う。探求には、聖書研究もよいが、病院などの訪問は、なおよいだろう。

これらを総合して考えると、レジオ活動はまさにその理想像であろうと思うが、それ以外でやり始めることは、なお深い意義をもっていると思う。

（学生）

〔声〕（自由投稿の欄）

これから

高野教会
J生

教会における各会が如何にあるべきか!!　は卒直にいって現今一般的に何らかの点で行きづまりを感じているか、何か物足りないか、今後あるべき方向を模索の状態であること等について反省させる。何故行きづまりを感じさせられるのかそれは社会背景の急速な発展に伴う著しい諸状勢の変革に適応した効果的な各会の活動がなされているかということに発しており、しからば現在に於て効果的な活動とは何かが論議される処となる。このことは各会の共通の問題として近年常に論ぜられ計られて来た処のものではある。あらゆる可能性を追求するという最近の若人のみならず現代人の考え方と動向は、著しく人間生活の範囲が拡大された現代に於ては尤もなことであり世間にアピールされることは当然なことかも知れない。しかし教会の世俗化（世俗主義に非ず）を考えるときに誤りを犯してはならないことは、人間内在の本質的なものは今昔に変らないのであり社会が脱工業化時代といわれすべてが有機化急速復雑化され忙しくなっても人間本性までもこれによって変え得

私たちの合同青年会

郡山教会青年会
船木靖弘

年三回の奈良地区合同青年会の集いを始めて今年で四年目になります。

各教会の青年会の親睦を目的としていたこの集いも、最近は一段と発展を遂げ、昨年九月には、上部機関として「奈良県カトリック青年協議会」が創設されました。

この合同青年会は、一日バスを借り切るなど野外レクリエーション的なことを中心に活動を進め、奈良地区全体の青年会員が互いに親睦と融和を保っていましたが、「二度とない青春を悔いのないように生きよう」ということからレクリエーション以外に黙想会とは夏期合宿を通じて、パネルディスカッション的な会合をもち、非常に成果をあげています。

昨年八月には、郡山教会幼稚園で合宿し、楽しかったキャンプファイアーや近くの公園での早朝野外ミサの他に、「青春とは何か」「マイホーム主義について」などのテーマでもってディスカッションを行ない、活発な意見の交換をしました。

その他、今年一月の新年会ではフォークミサを、また聖ペトロ・シャネル記念行事のレクリエーション以外に黙想会とは夏期合宿を通じて、パネルディスカッション的な会合をもち、非常に成果をあげています。

昨年八月には、郡山教会幼稚園で合宿し、楽しかったキャンプファイアーや近くの公園での早朝野外ミサの他に、「青春とは何か」「マイホーム主義について」などのテーマでもってディスカッションを行ない、活発な意見の交換をしました。

その他、今年一月の新年会ではフォークミサを、また聖ペトロ・シャネル記念行事の一貫として毎年行なわれている奈良地区合同春季体育祭には行事計画を担当し、忙しいうちにも有意義な日々を過していますが、私たちの本来の目的は、私たち青年がこうした機関を通じて、互いに協調し、断絶の時代といわれる現代に、そうした不安をなくし、私たち自らが社会に向って指導できるような、また模範となるような人間を育成することにあります。

またこの青年会は、これまでのレジオにみられた信者のみの機関ではなく、信者以外の人も容易に入会でき、その意味で、こうした機関を通じて各人が信仰というものを積極的に見い出して行けるのではないかと思います。

私たちは、この合同青年会の活動がただ奈良地区だけにとどまらず、他の地区の方々と何らかの形で交わりをもてますならば、本当にもっと内容の充実したものとなるのではないかと考えております。